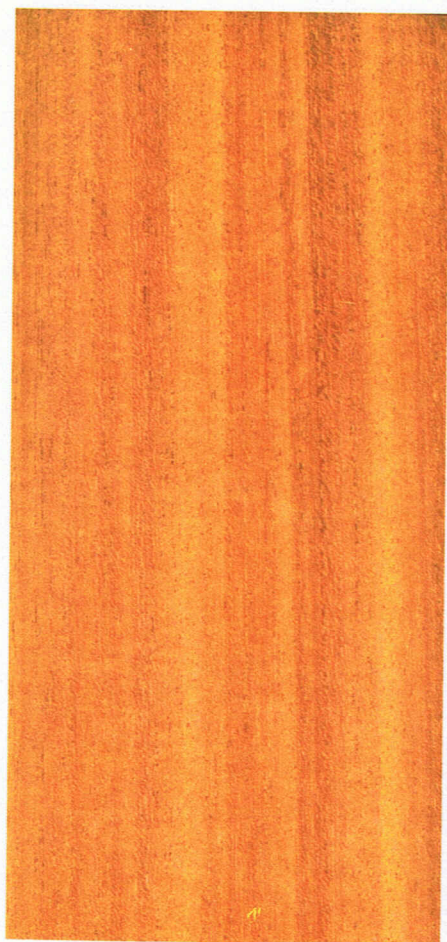


MAHOGANY

マホガニー

Mahogany (マホガニー) センダン科マホガニー属 学名 <i>Swietenia macrophylla</i>	
表面状態	散孔材。肌目は粗い。木理は交錯しリボン杢の美しい杢を生じ、微妙な色調の縞模様。泡杢、縮み杢、縞杢等の杢の出ることがあり、珍重されている。
生育地	ホンジュラス(中米)、中南米にも生育する。造林されたものが多くなっている。西インド諸島にもマホガニー(<i>S. mahagani</i>)もある。
材色	心材 淡褐色～赤褐色。辺材 黄白色～淡褐色。黄金の光沢を有する。
重さ	気乾比重 0.55(g/cm ³) 適度な重さ。
強さ	曲げ強さ 80N/mm ² 縦圧縮強さ 46N/mm ² 重さの割には強い。
弾性係数	曲げ弾性係数 10.4kN/mm ² 重さに対応した硬さ。
加工性	加工性は良好。仕上がり面は良好。接着性も良好。木彫やろくろ細工にも適する。
耐久性	耐腐朽性は高い。
安定性	製品後の安定性は非常に良い。狂いや反りは小さい。
乾燥性	乾燥性は良好。
塗装性	塗装性は良好。仕上がり感は良い。
同属樹種	<i>Swietenia mahoganii</i> , (現在は希少で市場にはない)
同名異種	サペリマホガニー(別名;サペリ、西アフリカ産、 <i>Entandrophragma cylindricum</i>)、チェリーマホガニー(別名;マコレ、西アフリカ産、 <i>Mimusops heckelii</i>)、ホワイトマホガニー(別名;ブリマベラ、中米産、 <i>Cybistax donnell-smithii</i>)、アフリカンマホガニー(西アフリカ産、 <i>Khaya ivorensis</i>)、ガボンマホガニー(別名;オクメ、赤道アフリカ産、 <i>Aucoumea klaineana</i>)、フィリピンマホガニー(別名;レッドラワン、東南アジア産、 <i>Shorea negrosensis</i>)、ウエスタンオーストラリアンマホガニー(別名;ジャラ、オーストラリア西部産、 <i>Eucalyptus mariginata</i>)、ボドンゴマホガニー(別名;チアマ、熱帯アフリカ産、 <i>Entandrophragma angolense</i>)、ピンクマホガニー(別名;トラブランカ、西アフリカ産、 <i>Gossweilerodendron balsamiferum</i>)、ポッドマホガニー(別名;アフゼリア、熱帯アフリカ産、 <i>Afzelia quanzensis</i>)、等。 マホガニーが高級家具に盛んに用いられるようになると、〇〇マホガニーという商品が流通するようになる。マホガニーが中南米の一部に生育しているのみで、近縁樹種があまり見られないので、特に、こういった商品が拡大していったようである。しかし、マホガニー自体が希少種(造林はおこなわれている)になってしまったので、〇〇マホガニーというネーミングから、それぞれの固有名称に切り替え始めているものが多くなってきた。サペリ、マコレ等はその名称で通用するものとして認知され、銘木としての評価もある。
用途	高級家具、キャビネット、室内内装、建具、楽器、高級器具、ろくろ細工、木彫品、化粧単板。杢のあるものは化粧単板にされ、キャビネットや壁板等に珍重されている。 家具材として、18世紀後半から加工のしやすさや材面の表情が好まれ、ウォールナットに代わって欧州での主要木材となった。イギリスのチップペンデル、ヘッブルホワイト等の家具作家の時代、フランスのルイ15世期からアンピール期にはマホガニーが好んで用いられた。



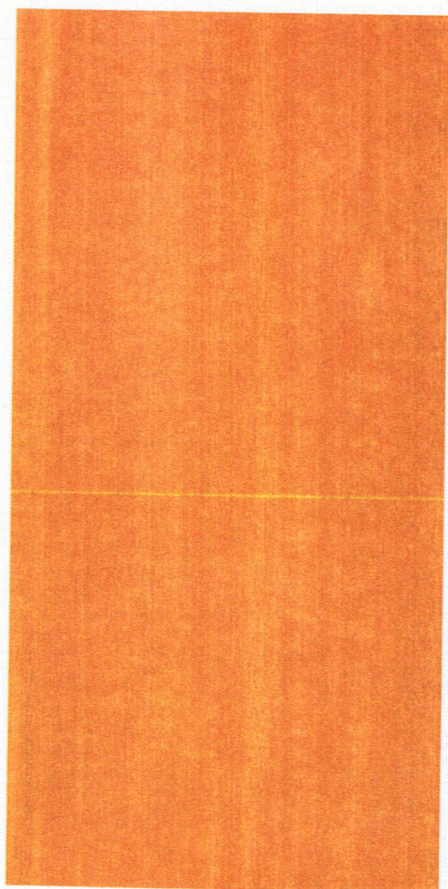
マホガニー^⑤



マホガニー^⑤



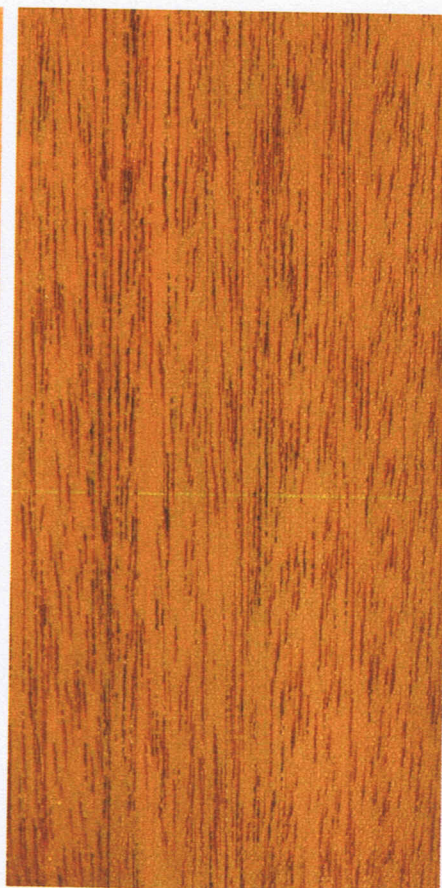
マホガニー^④



マホガニー



マホガニー



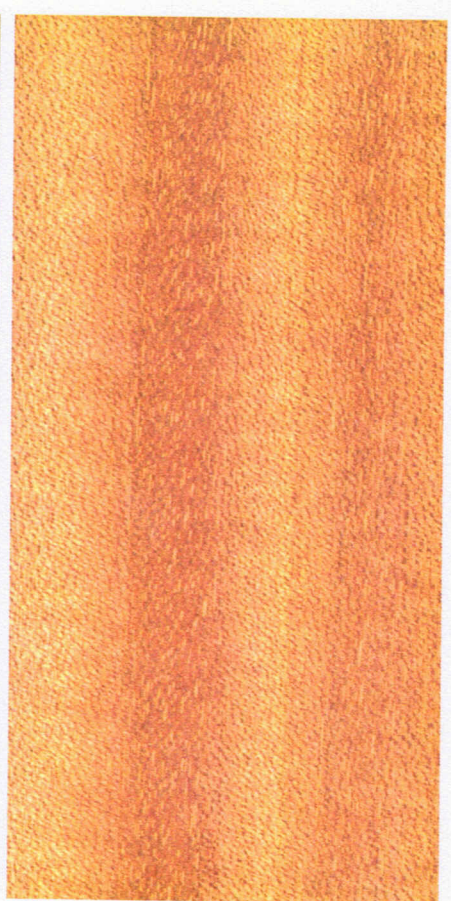
マホガニー



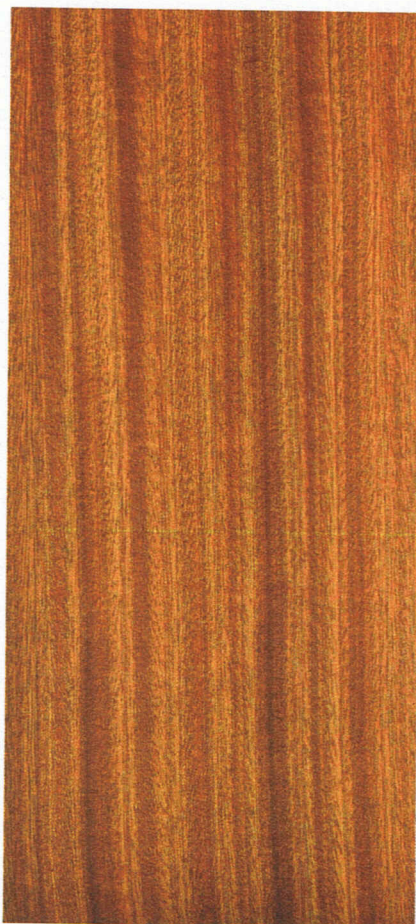
アフリカンマホガニー[®]



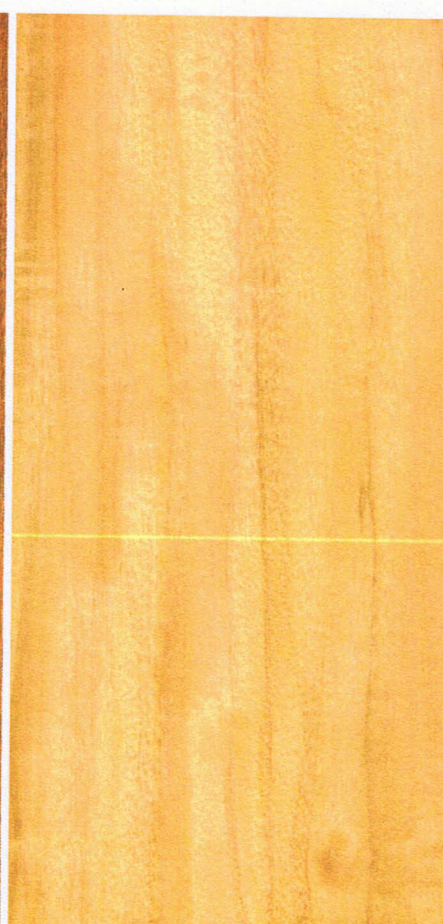
マコレ(チェリーマホガニー)[®]



レッドrawn(フィリピンマホガニー)[®]



サペリ(サペリマホガニー)[®]



プリマベラ(ホワイトマホガニー)[®]



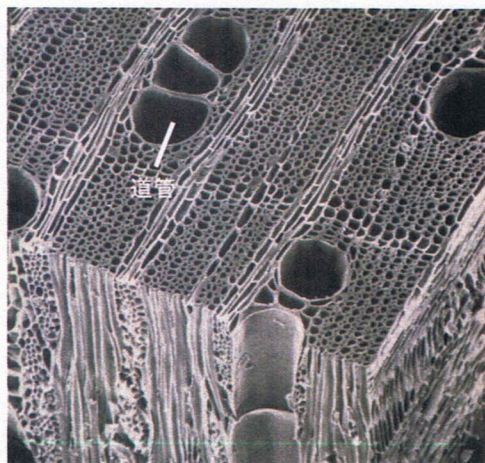
オクメ(ガボンマホガニー)[®]

異種同名の樹種	木材の特徴
アフリカンマホガニー (<i>Khaya ivorensis</i>)	西アフリカの熱帯雨林地帯に生育し、Khaya属(センダン科)の幾つかの種類の総称でアフリカンマホガニーとされている。木理は交錯し、柾目面にはリボン杻が明確に生じる。比重は0.53~0.59程度でマホガニーと同様の重さで、加工性や乾燥性も比較的良好である。しかし、耐衝撃性、耐久性はあまり高くなく、切断面が毛羽立つこともある。マホガニーの代替材として、家具やキャビネット、内装材、化粧単板等に使われている。
サペリ (<i>Entandrophragma cylindricum</i>)	サペリマホガニー、西アフリカ産で、柾目面に縞状の杻や縮み杻を生じる。比重は0.6程度で、あまり重たい木材ではない。加工性や乾燥性は比較的良好だが、製品になって狂いを生じることがある。家具やキャビネット、室内造作、化粧単板等に用いられ、高い評価がある。マホガニーの代用として拡がったが、現在ではサペリとして流通するようになった。
マコレ (<i>Mimusops heckelii</i>)	チェリーマホガニー、西アフリカの熱帯雨林地帯に生育し、マコレとして広く流通するようになった。マホガニーよりも肌目は細かく、美しい光沢を持っている。肌目のきめ細かさからチェリー(サクラ)やバーチ(カンバ)にもよく似ている。比重は0.65程度とやや重硬で、加工性や乾燥性は悪くない。マコレ材として、マホガニーと同様あるいはチェリーやバーチと同様に利用され、家具や室内造作材等に広く使われて、日本でもなじみのある木材となっている。
レッドラワン (<i>Shorea negrosensis</i>)	フィリピンマホガニー、東南アジア産。ラワン、メランチ類のフタバガキ科は70~80種類あり、合板(ラワン合板)に使われている。このうち、縞模様の杻を生じるものがあり、マホガニーに非常に似た材面を持っているものがある。家具や室内造作材、化粧合板として使われているが、あまり出回らなくなっている。
オクメ (<i>Aucoumea klaineana</i>)	ガボンマホガニー、赤道アフリカ産。マホガニーに似ているので、ガボンマホガニーと呼ぶこともあるが、最近ではオクメとして評価されている。木理は若干交錯し、縞模様や波状の杻を生じることがある。比較的軽軟(比重0.45)な木材で、一部には装飾用の化粧合板として使われる場合もあるが、一般の造作用として使われることが多い。

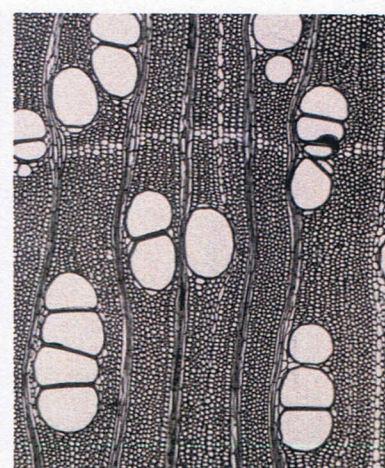
マホガニー(*S. macrophylla*)は、中米・南米に生育するセンダン科マホガニー属の広葉樹です。マホガニーの他、幾つかのマホガニー属のものを混用しているようです。これらを含めて非常に貴重な木材で、熱帯各地に造林されるようになりました。最近では造林された木材の流通が多くなっているようです。

マホガニーは淡褐色～赤褐色の材色ですが、交錯した木理になると微妙な色調の濃淡が縞模様を形成し、黄金色に輝くような美しさを見せます。経時変化により濃色化してさらに美しくなります。また、マホガニー色という表現がおこなわれるほど、美しい色調として表現されています。しかし、日本では、本物のマホガニーの透明塗装のものはあまり見る事ができず、着色したものが多いようです。マホガニーが西欧で使われるようになってきた頃から、シェラックニスが流行し、20世紀に入ってラッカー等の透明塗装が可能になると、マホガニーの塗装仕上げに盛んに用いられるようになりました。比較的軽い木材の割には硬くて粘りがあり、加工性、乾燥性も良く、非常に扱いやすい木材です。また、狂いも少なく、製品の安定性も良好です。

マホガニーは高級な家具や内装材、木製小物等に用いられる他、楽器・ろくろ製品等にも賞用され、世界で最も優良な木材の一つとされています。18世紀中頃～20世紀にかけて、西欧の高級家具を席捲し、チッペンデル



マホガニーの走査型電子顕微鏡写真^①



木口の顕微鏡断面^②

やヘッブルホワイトたちは好んでマホガニー材を使いました。

こういった高級材には、〇〇マホガニーと称する木材が大量に流通しています。熱帯地域に見られますが、多くはセンダン科の樹木で、近親といえるかも知れません。そして、銘木といわれるものが多く、美しい材面ですが、材質は本来のマホガニーに及ばないものが多いようです。最近では、マホガニー自体が希少になってきましたので、これらのものも〇〇マホガニーという名称をはずすものも多くなっています。